

# 特集 2 慢性腎臓病の疫学



やまがた くにひろ

**山縣 邦弘**

筑波大学医学医療系 臨床医学域  
腎臓内科学 教授

## 要旨

我が国の慢性腎臓病 (CKD) 患者数は、尿蛋白試験紙法+以上またはeGFR<60mL/分/1.73m<sup>2</sup>となる者で、2005年には1,330万人 (成人の8人に1人) であったが、2015年には1,480万人 (成人の7人に1人) に増加したと推定されている。また、CKDの定義に則り、3カ月以上連続的に腎障害を認めた真のCKD患者数は、2015年の報告で1,020万人であることも明らかとなった<sup>1)</sup>。

一方で、尿蛋白土を微量アルブミン尿陽性者と同等の蛋白尿分類A2相当と捉えることが提唱され、高血圧性腎硬化症の早期発見のためには、尿検査を試験紙法からアルブミン尿検査へと変更することの必要性が指摘された。また、eGFR算出の正確性向上のため、血清シスタチンCを基にした推算式が提案され、CKDの有病率に大きな影響を与える変更がなされている。

我が国の将来推計人口は若年層の人口の減少は著しいが、65歳以上は2040年まで、75歳以上に至っては2055年まで増加が続くと予測されている。中高齢者に多い糖尿病、高血圧などの生活習慣病に長く罹患した後に発症する糖尿病性腎症、腎硬化症などを原疾患とするCKDが今後も増加すると予想される。今後は、糸球体腎炎、糖尿病性腎症対策に加え、高血圧性腎硬化症の重症化予防と高齢者の身体機能の維持が重要な課題である。

## キーワード

慢性腎臓病 (CKD) , 推算GFR, 特定健診, NDB, アルブミン尿, 健康寿命

語句解説

対 特集  
談 1

特集  
2

特集  
3

特集  
4

特集  
5

特集  
6

ホッと・  
World News

最新  
トピックス

徒然なる  
ままに。